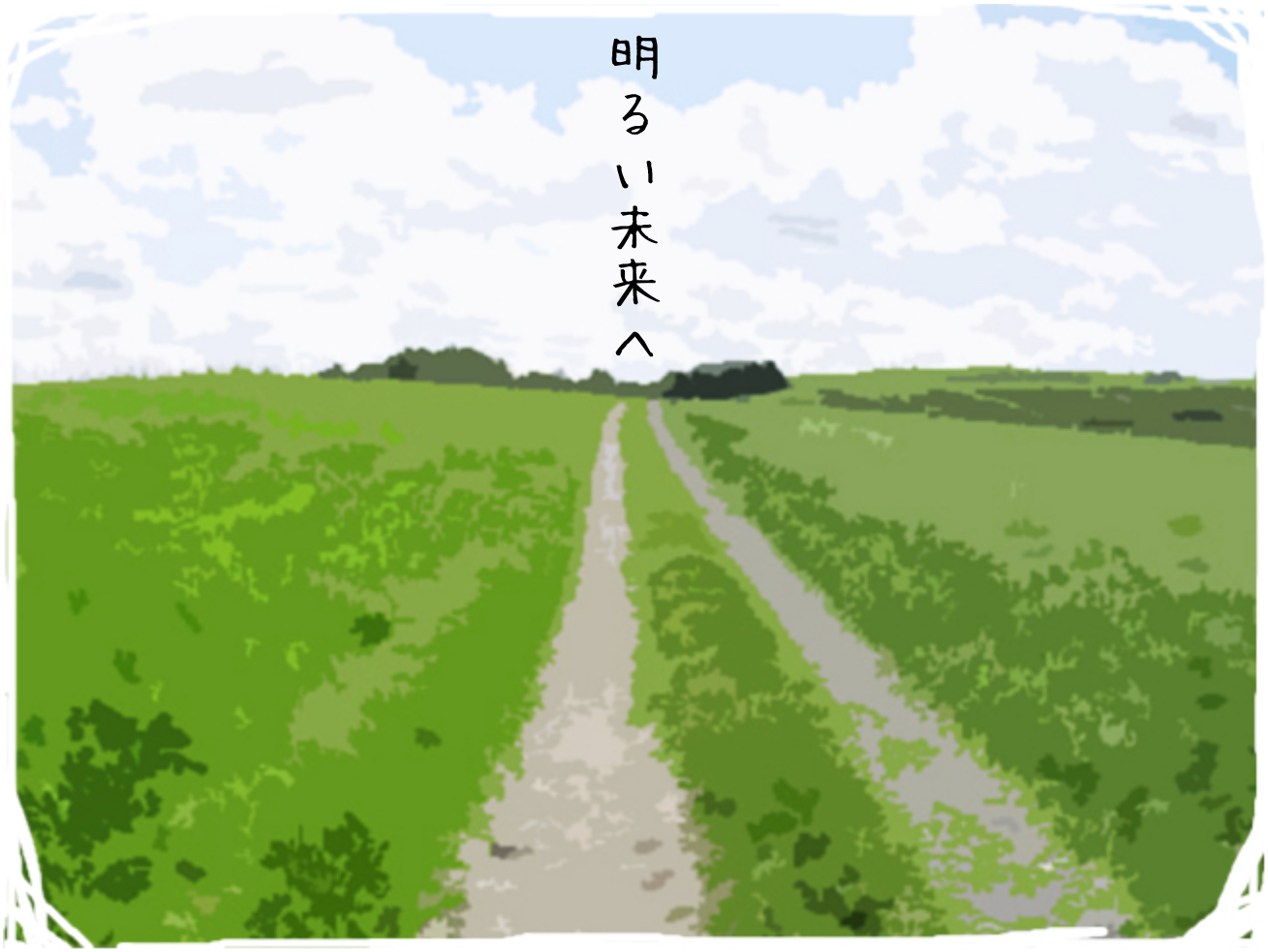


生き方を探るシンポジウム

と　き／2011年2月12日（土）
ところ／久留米市民会館大ホール

主催／次の時代をともに創る実行委員会
共催／久留米市、フォーラム inくるめ実行委員会、高等教育コンソーシアム久留米
後援／久留米市教育委員会、久留米市民会館(指定管理者(株)西日本企画サービス)、久留米市介護福祉サービス事業者協議会、久留米保育協会、朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、久留米日日新聞、福岡県精神保健福祉士協会、久留米商工会議所、筑後市、筑後市教育委員会、久留米医師会 （順不同）

実行委員長あいさつ

次の時代をともに創る実行委員会
実行委員長　塚崎 修平

「次の時代をともに創る実行委員会」実行委員長を務めさせていただいております、塚崎修平でございます。本日は「生き方を探るシンポジウム」に参加していただき誠にありがとうございます。

私たちは、今までのような「競争社会」や「上昇志向」で得られた豊かさが、本当の意味で、人々に幸福をもたらしていないことに気付き始めています。これからは、子どもたちをはじめ、若者、高齢者、障がい者など一人ひとりが、市民力をつけ、地域活動や人間関係（ネットワーク）などによって得られる「新しい豊かさ」を追求し、未来に夢と希望を持って暮らしていけるような、新しい地域づくり、福祉、教育などのあり方を模索していくことが必要なのではないでしょうか。そこで、私たちは「フォーラム in くるめ」「デンマークに学ぶ研修会」等に参画し、多くの市民の参加により、市などの協力も得ながら、さまざまな課題を取り上げ議論し、提唱してきました。その連携や経験をもとに、今回のシンポジウムでも、市民一人ひとりに参画していただき、細かく議論しながら取り組んでいくことができたらいいなと思います。

僕が実行委員長をしようと思ったきっかけは、何度か講演活動をしていく中で、自分に何かできることがないかと思っているときに、僕に「実行委員長になってもらえないか」という打診があったからです。僕は今までこんな責任のある事をしたことがなく、初めてのことだったので、自分に実行委員長が務まるかどうか不安があり、とても悩みました。しかし、「これは天の声だ」と思って、今回、実行委員長を引き受けることを決断しました。僕が講演をするのにも理由があり、「僕の講演を聞いた人がひとりでもいいから変わって欲しい」、「当事者意識を持って欲しい」と思って活動しております。いつ、どこで、誰が事故に遭って車イスになるか分かりませんし、鬱になるかもしれません。自分や自分の家族、自分の周りにいる人がそうなる可能性もあります。やはり、これからの時代は、わたしたち市民一人ひとりが当事者意識を持つべきだと思います。

今回のシンポジウムは、久留米市と「フォーラムｉｎくるめ」との共催で昨年の 10 月から約 4 カ月間という短い期間中に、いくつかのテーマで勉強会を行いました。児童虐待や久留米市のまちづくり、久留米市の環境、農業などについてです。これらの勉強会をしていく中で、久留米市の現状を知ることができました。市の現状を知ることで、個人的には多くの知識を得て、市政へも目を向けることができてきたように思います。本シンポジウムで先進的な取り組みや活動している方の話を聴いたり、当事者のことを知ったりすることで、みなさんがこれからの生き方について考えるきっかけとなれば幸いです。

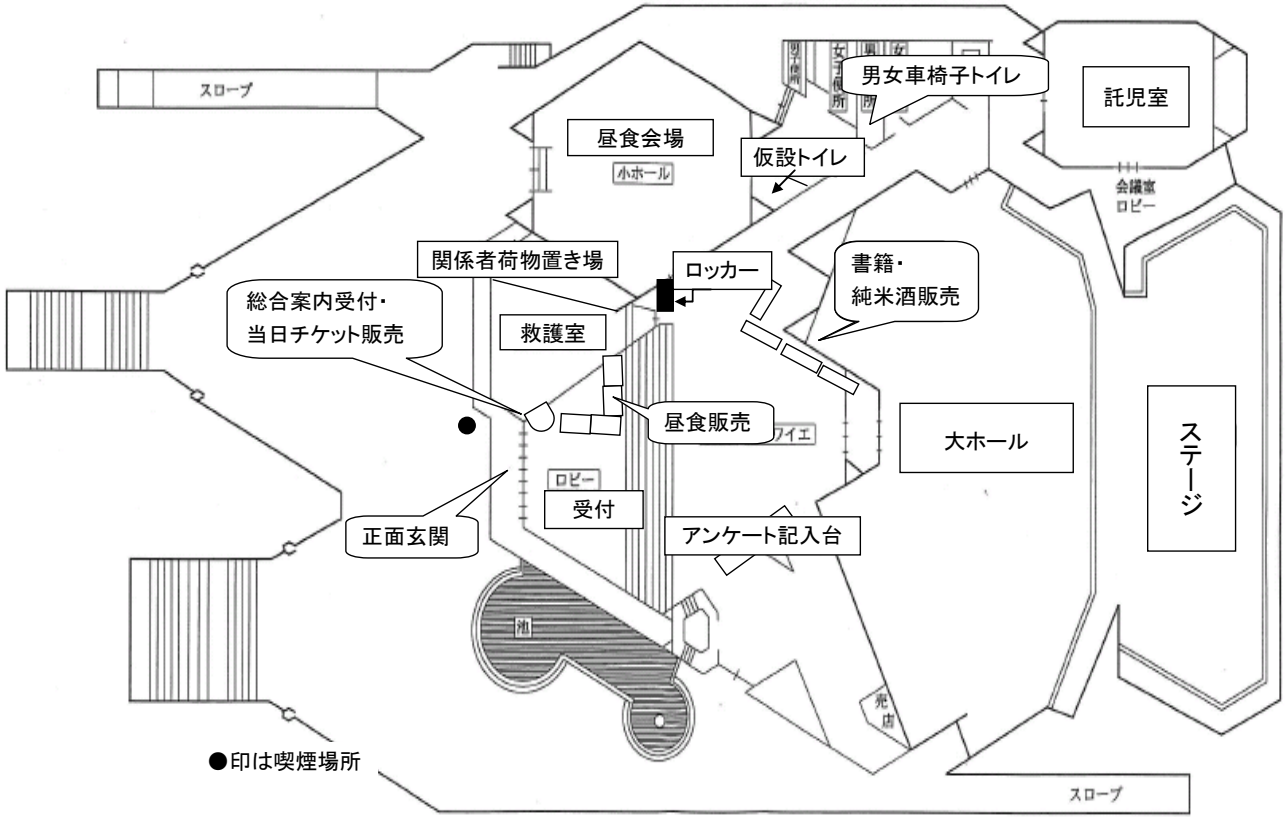
最後になりましたが、今回のシンポジウムを開催するに当たり、快く引き受けていただいた登壇者のみなさま、当日に向けて何回もの会議を積み重ねてきた実行委員や事務局のみなさん、当日ボランティアとして関わってくださっている方々、そして今日参加してくださっているみなさまにお礼と共に感謝申し上げます。

スケジュール

私たちは次の世代に何をつないでいけるのでしょうか。これまで、私たちの追い求めてきた経済成長と物質的な豊かさは十分に叶えられました。その一方で、環境問題や少子高齢化、格差社会など多くの課題を抱えています。どうしたら「明るい未来への希望」を取り戻せるのでしょうか。より多くの豊かさを求めて昇ってきた時代から、ありのままの自分と等身大の幸せに降りてゆく時代へ。そんな新しい生き方、いのちを育むまちづくりをみなさんと一緒に探っていきたいと思います。

8:30 ～	**受付開始**
9:00 ～9:30	**開会式** 実行委員長あいさつ 久留米市長と語ろう
9:30 ～12:00	**映画『降りてゆく生き方』** 上映プロデューサー 小村亮雄 より ［ストーリー］競争社会を生き抜いてきた団塊世代のヤリ手営業マンの川本五十六（武田鉄矢）は、第二の人生を夢見て地方都市開発へ乗り込む。その先で、環境問題に向き合う子どもや地域再生に取り組む人々との出会いを通して、自らの生き方と日本が抱える問題に真っ正面から向き合い挑むことに。まちづくり、環境、農業、自然とのふれ合いのなかで、現代人が忘れかけている「降りてゆく」生き方に出会う物語。
12:00 ～13:00	**昼食**
13:00 ～14:30	**シンポジウム①『昇っていく生き方、降りてゆく生き方』** シンポジスト： 向谷地　生良　（浦河「べてるの家」理事／北海道） 伊藤　知之　（浦河「べてるの家」当事者／北海道） 沢畑　亨　（水俣市久木野ふるさとセンター愛林館　館長／熊本県） 小村　亮雄　（映画「降りてゆく生き方」上映プロデューサー／東京都） コーディネーター： 藤木　則夫　（北海道厚生局長、谷間の支援を障がい者と地域でつくる推進員／北海道） 未来に夢と希望を持って暮らしていけるような、新しい地域づくりに取り組み、実践されている方々にお話をいただき、「降りてゆく生き方」についてみんなで考えます。
14:30 ～14:45	**休憩**
14:45 ～16:30	**シンポジウム②『これからの生き方～いのちを育むまちづくり～』** シンポジスト： 古賀　秀心(安武校区まちづくり振興会　会長／久留米市) 緒方　義信（久留米市商工会議所青年部　会長／久留米市） 森光　力（アグリオールスターズ／久留米市） 田原　加奈子（ＮＰＯ法人 ル・バトー、子育て中／久留米市） コーディネーター： 河野　恭子（内閣府 政策統括官(経済社会システム担当)付 社会システム担当 企画官） まちづくり、ネットワークづくり、自然や人、こころをつなぐ取り組みなど、地元久留米での実践を紹介します。これからの新しい生き方、次の世代に生きる子どもたちのためにいのちを育むまちづくりについて、みなさんと共に考え、これからの生き方を探っていきます。

会場案内図



映画上映、シンポジウムの開始 5 分前には、ご着席ください。

※ 映画上映、シンポジウムの開催中は、携帯電話のご使用をご遠慮ください。電源を OFF にするか、マナーモードにしていただくようお願いいたします。

- 生き方を探るシンポジウムにご参加いただきありがとうございます。生き方を探るシンポジウムは、スタッフ一同、安全面には十分心がけておりますが、みなさまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。
- 喫煙は、所定の場所でお願いいたします。（会場内は禁煙です）
- 本日は、スローフード協会が昼食を販売しております。昼食は、小ホール、ロビーをご利用ください。
- 各自ゴミは持ち帰っていただきますようお願いいたします。
- 気分が悪くなった方は、お気軽に近くのスタッフにお声かけください。

『降りてゆく生き方』とは！？

- いのちのつながりを意識する
- 自分の芯を持ち流されない
- 人にも心にもゆとりのある時間を過ごす
- 思い切って地域の行事に参加する

- スローな時間をもつ
- 弱者といわれる人たちに合わせる
- 自給自足にチャレンジ
- ゆっくり、ゆっくり
- 肯定的な人間関係を結ぶ
- その人の存在に気がつくこと
- 自分ひとりだけ、しあわせにはならない
- 援助とは関係を支援すること

- 喜ばれる生き方をする
- ゆっくり、早く
- 地産地消に協力する
- 歩く早さで
- 「助けて欲しい」と自分から言え、受け止めてくれる人がいる
- 隣の人に積極的に声をかけてみようとする
- おもいやり
- 熊の気持ちになってみる

- 等身大の幸せに気付く
- あなたの思いを言葉にして、つながる生き方
- 大切な人やものに時間をさく
- 背伸びしない
- かぜの色、そらのすがた、くものかたち、すべてがいとおしい
- 月がぽっかり夜空にはえる
- いのちがなによりたいせつ
- こどもの笑い声が聞こえる
- 田畑に住む生き物たちの事も気遣う
- 年老いてもしあわせに、お茶をすする

シンポジウム①　シンポジスト

むかいやち　いくよし
向谷地　生良

浦河「べてるの家」理事／北海道医療大学教授
ソーシャルワーカー

【プロフィール】

1955 年　青森県上北百郡石町で生まれる

1984 年　精神障がいを体験した当事者や有志と共に浦河「べてるの家」を、北海道浦河町に設立。以来、精神障がいを抱えた人たちと会社や共同住宅などをつくり、「弱さを絆に」「精神病で街おこし」を続けている
著書に『安心して絶望できる人生』（NHK 出版）、『統合失調症を持つ人への援助論－人とのつながりを取り戻すために』（金剛出版）ほか

【今がんばっていること】

当事者研究という統合失調症などを持ちながら地域で暮らす当事者の生活経験から生まれた自助－自分を助け、励まし、活かすーのプログラム・様々な生きづらさ（見極めや対処が難しい圧迫や不快なできごと、症状や薬との付き合い方、家族・仲間・職場における人間関係、仕事上の苦労、自らの固有の経験等）を研究の素材にします。それを多くの人たちに紹介しています。

１．まちづくりのキーパーソンって誰だと思いますか？

一番困っている人

２．次の世代へ 地球・日本を残すために、自分にできることは何ですか？
（個人の取り組みだけでなく、つながりや動きを作ることなど）

自分たちの経験―どんな失敗でも―を前向きに語ること

３．地域で人と人とのつながりを作るための工夫は？

地域住民自身が、身近な生活課題を「研究テーマ」としてお互いに研究し合う事。「生涯研究のまちづくり」

シンポジウム①　シンポジスト

いとう　のりゆき
伊藤　知之

浦河「べてるの家」当事者スタッフ

【プロフィール】

自己病名：統合失調症全力疾走依存型あわてるタイプ。

子供の頃から正体不明の緊張感と不安感をかかえる。

イジメられ、体験と共に厳しい父親の元で安心のない生活を強いられる。

大学時代に、統合失調症を発症、通学途中の高校生が悪口を言っている感覚に襲われる。大学を卒業後、公務員として福祉関係の仕事につくも、人間関係などのプレッシャーから休職。その後転職して、浦河「べてるの家」で当事者スタッフ（精神保健福祉士）として働いている。最近では、北海道よりピアサポーターを委嘱され、入院中の仲間が退院した後の、地域生活の応援活動も行っている。

【今がんばっていること】

障がいを持つ人も持たない人も、等しく地域で暮せるように、べてるに来る仲間の応援をしたり、訪問に行ったりしています。また、べてるに来るお客様に、よりべてるのことを知ってもらうように努力しています。さらに、全国各地の講演会で出会った当事者と「ネットワーク」を作ることも考えています。

１．まちづくりのキーパーソンって誰だと思いますか？

その町に住む人、一人ひとりが、キーパーソンだと思う。
力を合わせれば大きなことができる気がする。

２．次の世代へ 地球・日本を残すために、自分にできることは何ですか？
（個人の取り組みだけでなく、つながりや動きを作ることなど）

今は、「無縁社会」という言葉もあるように、人とのつながりが希薄な社会だと思う。つながりを回復するため、全国の人に名刺を配り、不定期に連絡をとるようにしている。

３．地域で人と人とのつながりを作るための工夫は？

インターネットが普及した現在では、（それのみに頼り切ってもいけないが）ネットを活用したコミュニケーションをもっと活用すべきである。チャットやブログ・ツイッターが使える人が増えると「つながり」も増える気がする。

シンポジウム①　シンポジスト

さわはた　とおる
沢畑　亨

水俣市久木野ふるさとセンター愛林館　館長

【プロフィール】

1961 年　熊本県　西合志町で生まれる

1976 年　久留米市在住。明星中・附設高卒業

1980 年　東京大学農学系大学院修了・農学修士（林学専攻）

1994 年　コンサルタント自営を経て、全国公募の愛林館館長に就任し、現在に至る

他に、水俣市環境審議員、熊本大学講師、熊本県水の達人、農林水産省環境相談員、球磨川・不知火海流域圏学会監事、自由飲酒党総裁、棚田食育士家元など

【今がんばっていること】

2000 年、棚田を耕作し、人工林の手入れをするむらづくり。

身土不二（身体は土でできている＝近くの材料と季節の材料を使う食を）に近づく。加工品の製造販売。食べ物手作り体験。家庭料理大集合。自然素材のたいまつを 2000 本立てる「棚田のあかり」。耕作断念地の草を刈るボランティア合宿「田助手（たすけて）」。1 泊 2 日の棚田食育士養成講座。森林青年協力隊（県の事業）受け入れ。1000 人の村に 300 人が集まるしし鍋マラソンなど、愛林館で活動しています。

1．まちづくりのキーパーソンって誰だと思いますか？

善人としての回答：地域をよそと比べて見られる人。
地域が好きな人。
悪人としての回答：私。

2．次の世代へ 地球・日本を残すために、自分にできることは何ですか？
（個人の取り組みだけでなく、つながりや動きを作ることなど）

善人：森を育て、土と水を育み、棚田を守ること。そのための組織と人間関係づくり。
悪人：日本は広い。北海道や東北はもちろん、福岡でさえ日常生活の範囲外で知ったことではない。私の地域でできることをやるだけだよ。地球は人間がどうなろうと残るから心配無用。

3．地域で人と人とのつながりを作るための工夫は？

善人：お祭り、森づくりなど、共同作業をする機会を増やしたい。
悪人：いくら呼びかけてもわからん奴はわからん。
わかる人だけつながれば充分だ。
相手は地域の外の人でも構わん。

シンポジウム①　シンポジスト

こむら　あきお
小村　亮雄

映画「降りてゆく生き方」上映プロデューサー／
米国公認会計士

【プロフィール】

1977 年　北海道　札幌市で生まれる

1996 年　アメリカへ渡る

2001 年　California State University, Hayward（アメリカ・カリフォルニア州）卒業 理学士号（経営管理学専攻）取得

Deloitte & Touche LLP（アメリカ・ニューヨーク州）に所属。アメリカにおける金融機関をはじめとするクライアントの会計・内部統制監査業務、財務コンサルティング業務及び企業買収業務に従事

2009 年　帰国後、独立

海外の投資ファンド、エネルギー資源商社、セキュリティ・テクノロジー会社、国内の証券会社等の事業コンサルティング業務、事業戦略立案、新事業開発に従事

【今がんばっていること】

現在は、映画「降りてゆく生き方」の制作及び上映に従事。「広告・宣伝をしない」、「テレビ放送しない」、「DVD 化しない」という既存のビジネスとは全く異なる視点で取り組み、公開以来約 2 年という異例のロングラン上映を実現しています。先月 1 月 30 日の沖縄公演では、およそ 2,500 名に来場いただき、たくさんのお喜びの声を頂戴しました。

1．まちづくりのキーパーソンって誰だと思いますか？

「特別なキーパーソンがまちを変える」ということではなく、自分自身が変わることで周りの人との関係性が変わり、関係性が変わることで周りの人自身が変わり、結果としてまちが変わってゆく、ということが必然であると思います。自己変革を続ける一人ひとりこそが、まちづくりのキーパーソンなのではないでしょうか。

2．次の世代へ 地球・日本を残すために、自分にできることは何ですか？
（個人の取り組みだけでなく、つながりや動きを作ることなど）

僕は、自分自身に対してどれだけ慈しみの気持ちを持って向き合うことができるのか、自分自身をどれだけ客観的に観察し、知ることができるのか、ということを心がけてゆきたいと思っています。それさえできれば、他人に対しても、次世代に対しても、そして地球に対しても同じように接することができると思うからです。（まだまだ感情に飲み込まれて、自分を見失ってばかりいますが...）そして、すべての方々が幸せになることを願い、映画「降りてゆく生き方」の上映を続けることが、僕が唯一できることです。

3．地域で人と人とのつながりを作るための工夫は？

自分自身を客観的に観察し、自分自身の弱さを認識し、虚勢や思い込みから脱却し、それを語ってゆくことです。すると、そこに人との共感がうまれ、その共感が深まり、自然に人とのつながりを感じていきます。ぜひ、映画「降りてゆく生き方」の上映をオススメします。「この映画を観て、どのように感じたのか」、「なぜ、貴方にもこの映画を観てもらいたいと思ったのか」、その想いを突き詰めてゆく過程で、必ずや人と人とのつながりを実感いただけることと思います。

シンポジウム①　コーディネーター

ふじき　のりお
藤木　則夫

厚生労働省北海道厚生局長、
谷間の支援を障がい者と地域でつくる推進員

【プロフィール】

1956 年　新潟県　佐渡島で生まれる

1980 年　京都大学法学部卒業

（旧）厚生省入省

入省後、厚生労働省では、医療、保健、福祉、医療保険、年金、官房業務（法令、予算）などの各分野を歴任。最近では、介護保険法改正、障害者自立支援法の制定、地域福祉のあり方など「ふくし」部門を担当

環境省では、水質保全分野の環境保全対策を担当。内閣法制局では、介護保険法の制定、年金改革法、医療保険改革法、精神障害保健福祉法改正法、障がい欠格条項見直し法などの立法審査を担当

【今がんばっていること】

厚生労働省の仕事は、一人ひとりの人間としての生き方や暮らし方に深く関わります。私は、できるだけ、多くの地域に出向いて、見たり、聞いたり、息吹を感じたり、触れ合ったり、語り合ったりすることを大切にしてきました。久留米で取り組んだ「谷間の支援を障がい者と地域でつくるプロジェクト事業」にも、このようなご縁の中で、参画させていただきました。

映画「降りてゆく生き方」については、私は、これまで、北海道内札幌市、北見市、当別町、別海町、東京、千葉県市川市の上映会に参加してきました。映画を通じて人と人が新たなご縁を結び、映画を契機として人と人が繋がっていく不思議な映画です。

１．まちづくりのキーパーソンって誰だと思いますか？

楽しい町のドラマが演じられるためには、役者とプロデューサーが必要です。まちづくりに必要な役者は、自分の弱さを知っている一人ひとりの住民であり、必要なプロデューサーは、誰でもいい、情熱を持ったコーディネーター役と、それを育み、支援する行政と思います。

２．次の世代へ 地球・日本を残すために、自分にできることは何ですか？
（個人の取り組みだけでなく、つながりや動きを作ることなど）

自分には、まだできませんが、スーパーに並んでいる牛乳パックの一番前の古い日付のものから買い求めること。地球や日本の環境を守るためには、かけ声だけでなく、実践が必要です。それには、個人の負担も伴うことを覚悟しなければならないと思います。そのことが、負担と感じるのではなく、楽しいことと感じられるようなシステム、制度ができたらいいなと思います。

３．地域で人と人とのつながりを作るための工夫は？

「人声楽縁」。あいさつを始め、人と人の出逢いに、語り合い、コミュニケーションがあります。そのような繋がり（縁）を持てることを、住む人が「楽しい」と感じられる社会を創っていくこと。そのためには、どうしたらよいのでしょうか？その答え探しが、今回のシンポジウムだと思います。

シンポジウム②　シンポジスト

こが　ひでみ
古賀　秀心

安武校区まちづくり振興会 会長

【プロフィール】

1943 年　久留米市安武町で生まれる
2003 年　久留米市役所退職
2003 年　くるめ国際交流協会（常務理事）
2004 年　安武校区北古賀自治会（会長）
2007 年　安武校区公民館振興会（会長）

【今がんばっていること】

校区まちづくり振興会の会長として、住民のみなさん一人ひとりが、かけがえのない人間として尊重され、年齢や障がいのあるなし、また、性別に関わりなくお互いが協力し、支え合い、生きている幸せを実感できる「福祉のまち安武」を目指して取り組んでいます。

１．まちづくりのキーパーソンって誰だと思いますか？

「まちづくり」は役員だけでも、男性だけでも、できるものではありません。年令、性別に関係なく住民全員の参画、参加、協力でできるものです。その意味で、キーパーソンは「住民」と思います。

２．次の世代へ 地球・日本を残すために、自分にできることは何ですか？
（個人の取り組みだけでなく、つながりや動きを作ることなど）

少子高齢社会の到来が、現実のものとなった今日、近隣の付き合いの希薄化など地域を取り巻く環境は大きく変化しております。そういう中で、日本の伝統行事も担い手の減少により、だんだん廃れております。伝統行事を継承することで「日本の良さ」を次代を担う子ども達に引き継いでいくことも大人の責務だと考えます。

３．地域で人と人とのつながりを作るための工夫は？

「まちづくりの基本は人づくり」です。
まちづくりを推進していくためには、地域住民がお互いに話し合い、交流していく（人と人とのつながり）ことから始まります。そこで、出会いの場、交流の場として、地域での文化、スポーツ等の行事を数多く、継続して実施していくことや、市民活動（ボランティア活動や地域活動）を活性化することが必要です。

シンポジウム②　シンポジスト

おがた　よしのぶ
緒方　義信

久留米市商工会議所 青年部 会長

【プロフィール】

1965 年　久留米市で生まれる
1983 年　久留米商業高等学校　卒業
1987 年　三和商会　入社
2003 年　三和商会　社長就任
　　久留米商工会議所　青年部入会
2010 年　久留米商工会議所　青年部会長

【今がんばっていること】

久留米の活性化、主に商業関係
経営者の集まりなので、お互いの交流を深めることが、久留米の発展につながると思い、会長として働きかけている。

１．まちづくりのキーパーソンって誰だと思いますか？

バカ者、よそ者、若者が町を変えると言われます。若い方が「まちなか」に集まると自然とまちに活気が生まれると思います。

２．次の世代へ 地球・日本を残すために、自分にできることは何ですか？
（個人の取り組みだけでなく、つながりや動きを作ることなど）

資源を大事にする。人を思いやる気持ちを大切にする。

３．地域で人と人とのつながりを作るための工夫は？

コミュニケーションをとること、手段は色々ですが、一人では生きられない。
人に接しないと絶対に生きられないことを意識する。
自分だけ関係ないというのは考えられない。
誰でも、人に迷惑をかけるのだから、迷惑はあたりまえと受け止めることが大切ではないでしょうか。

シンポジウム②　シンポジスト

もりみつ　ちから
森光　力

酪農家３代目

【プロフィール】

1979 年　久留米市で生まれる
高校卒業後、静岡、カナダのオンタリオ州の酪農家で２年３ヶ月修行
21 歳で実家の酪農を就農
25 歳で結婚。現在２児の父

【今がんばっていること】

酪農業。
自分の牧場で生産された牛乳を使っての乳製品の委託製造販売。
（アイスクリーム・ソフトクリームミックス・チーズ・ソーセージ）
移動販売（アイスクリーム・筑後ミルク豚ホットドッグ）
スローフード協会筑後平野理事。
2010 年７月、アグリオールスターズ結成。（生産者６名・シェフ・デザイナー）

１．まちづくりのキーパーソンって誰だと思いますか？

市民一人ひとりだと思います。

２．次の世代へ 地球・日本を残すために、自分にできることは何ですか？
（個人の取り組みだけでなく、つながりや動きを作ることなど）

自分にできることは何か？と常に考え続け、一つずつできることから、「得意なことから」実行していくこと。

３．地域で人と人とのつながりを作るための工夫は？

私にはちょっと難しい質問です。しかし、このシンポジウムに参加させていただくことは、私にとって、とても有意義な出会いと時間がたくさんあると思いました。
それから、個人的には、朝市などに参加して自分が作った乳製品やホットドックなどを販売しています。顔が見える関係、「市場」は人と人とのつながりを作ると思います。

シンポジウム②　シンポジスト

たはら　　かなこ
田原　加奈子

ＮＰＯ法人 ル・バトー／子育て中の母

【プロフィール】

1977 年　　大分県　大分市で生まれる

1995 年　　大分県立大分上野ヶ丘高等学校卒業

2007 年　　夫の転勤で久留米市へ。妊娠出産を経て１児の母

【今がんばっていること】

ＮＰＯ法人ル･バトーで活動中。

子育てや女性問題など、学びあい助け合いなどしながら講習会などを企画しています。

子育て中でも自分にできることをしようと、子連れで参加できるパソコン教室を主催。

１．まちづくりのキーパーソンって誰だと思いますか？

そこに住んでいる人すべて。

２．次の世代へ 地球・日本を残すために、自分にできることは何ですか？
（個人の取り組みだけでなく、つながりや動きを作ることなど）

自分のことだけでなく、周りを思いやる心を育てること。まずは自分からはじめて、徐々に周りの人にも気持ちが伝わっていけばいいと思います。

３．地域で人と人とのつながりを作るための工夫は？

自然と集まりたくなる交流の場を作ることが必要だと思います。

シンポジウム②　コーディネーター

かわの　きょうこ
河野　恭子

内閣府 政策統括官(経済社会システム担当)付
社会システム担当 企画官

【プロフィール】

1970 年　福岡県　大牟田市で生まれる
1989 年　明治学園高等学校卒業
1993 年　東京大学経済学部卒業
　　労働省（現厚生労働省）入省（2003 年から 2 年間久留米市）
2010 年　現職

【今がんばっていること】

若者や非正規労働者など能力育成の機会に恵まれない人々の増大や、企業の人材育成機能の低下が指摘されている中、少子高齢化という制約要因を跳ね返し、新たな経済成長を支える「人づくり」を推進する観点から、職業能力評価と教育・能力開発を結び付け一層の体系化を図った上で、一企業内にとどまらず社会全体で実践的なキャリア・アップを図る戦略プロジェクトを進めています。パーソナル・サポート・サービスの制度化に向けた検討を行っています。

１．まちづくりのキーパーソンって誰だと思いますか？

「現役世代」だと思います。
地域との関わりが少ない世代が、まちづくりに普通に参加する社会になればと思っています。

２．次の世代へ 地球・日本を残すために、自分にできることは何ですか？
（個人の取り組みだけでなく、つながりや動きを作ることなど）

男性も女性も子育てをしながら普通に働き、地域とのつながりを持って暮らすことができる社会の実現のために努力していきたいです。

３．地域で人と人とのつながりを作るための工夫は？

多様な「工夫」があればコミュニティが生まれていくのではないでしょうか。

協賛ありがとうございました！

（株）西日本企画サービス
平林建設（株）
共に生きる場 JAMBO
（株）和泉プロパン
障害者支援施設　大成園・メゾンマリア
のぞえ総合心療病院
NPO ドナセナ
姉川脳神経外科
障害者支援施設　陽だまりの里
ヘルパーステーションきぼう
平川武
社会福祉法人拓く　出会いの場ポレポレ
ポレポレ倶楽部
（医）楠病院
そう馬
（有）久留米映像
（株）田島織物
田島整体院
ありがとうプロジェクト
NPO 法人 たんがく 代表 樋口千恵子
（株）ライフメディカル
NPO 法人 ル・バトー
ゆうかり学園

（敬称略・順不同）